

開館一周年記念 春の特別展

色定法師と日宋貿易

開催期間

4/23^火 - 7/7^日

観覧無料

偉業達成とそれを支えた絆。



海の道むなかた館 (宗像市郷土文化学習交流館)

開館一周年記念 春の特別展

色定法師と日宋貿易

宗像大社の社僧であった色定法師は、五千巻を超える経巻を一人で写経するといった偉業を成し遂げた。その頃、日本と中国(宋)との間では日宋貿易が行なわれており、12世紀には多くの宋商人が博多津を拠点に活躍していた。その痕跡は博多だけでなく、宗像地域にも数多く残っている。色定法師が書き写したとされる一切経の奥書には、書写する元になった経の持ち主である張成、墨を提供し書写事業のパトロンであった李栄の名があり、国際感覚に富んだ宗像を背景に大貿易商の後押しを得て、色定法師の一大事業は結実したといえる。今回の展示では、色定法師の偉業を紹介すると共に、一筆一切経の達成に深く関わった日宋貿易に着目し、中世宗像の活発な海外との交易の様子を紹介します。

偉業を成し遂げた色定法師に迫る

色定法師は宗像大社の座主(社僧の首席僧)の子として保元3年(1158年)に生まれ、晩年には父と同じく座主を務めた。国家平和、社内の人々の安寧や父母兄弟の長寿などを願い、一切経(すべての仏教経典)を一人(一筆)で書き写すことを文治3年(1187年)に発願。42年の歳月をかけて嘉禄3年(1228年)70歳のときに五千巻を超える写経を終え、宗像大社に蔵納している。その偉業を讃えて造られた木造色定法師坐像と紙本墨書色定法師画像などを展示。



一筆一切経(国指定重要文化財)



色定法師坐像(県指定文化財)

出土遺物から見る日宋貿易の中心都市の面影

古代から中世にかけて国際貿易の拠点であったことを裏付ける博多遺跡群。日宋貿易の頃にはすでに宗商人たちは博多に居を構え、「唐房」と呼ばれるチャイナタウンを形成していた。福津市立津屋崎小学校の敷地内には在自西ノ後遺跡があり、南東側には「唐房地」という地名が残る。そこから土師器、瓦器、陶磁器、木簡が出土し、その中に貿易商であることを示す墨書もあることから、ここも「唐房」の跡ではないかと考えられている。そんな在自西ノ後遺跡の出土遺物や博多遺跡群出土貿易陶磁を展示することで、色定法師を援助し、一筆一切経の達成に大に関わった商人たちが活躍した日宋貿易の様子を感じることができます。



日宋貿易に使われた舟(模型:福津市博物館蔵 作成:畑正博)



博多遺跡群出土磁器白磁灯火器と碗



博多遺跡群出土磁器



博多遺跡群出土土器



在自直の成泉館



在自直ノ後遺跡井戸



在自西後遺跡出土木簡



海の道むなかた館 (宗像市郷土文化学習交流館)

[住所]宗像市深田588 [TEL]0940-62-2600 [開館時間]9:00~18:00 [休館日]毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌平日)

<http://searoad.city.munakata.lg.jp/>